

市政記者クラブ 様

令和7年4月10日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）楫屋、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田、原田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和7年3月分患者発生状況）について

本市では、『感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律』に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 3月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年3月	令和6年3月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	15件	29件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	4件	1件
◆四類感染症 ・チクングニア熱 ・レジオネラ症	1件 3件	0件 3件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・ウイルス性肝炎 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・梅毒 ・百日咳	1件 1件 3件 3件 1件 2件 12件 41件 21件	2件 0件 6件 2件 3件 0件 7件 41件 1件
◆五類感染症（定点把握疾病：第10週～第13週（3月3日～3月30日分）） ・報告数の多い疾病は、①感染性胃腸炎（1,421件：前月比1.20倍）、②新型コロナウイルス感染症（1,079件：前月比0.61倍）、③インフルエンザ（270件：前月比0.54倍）の順となっています。		

2 トピックス

《麻しん（はしか）～予防には予防接種が効果的！早めに接種して感染を防ぎましょう～》

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、ヒトからヒトへ空気感染、飛沫感染及び接触感染のいずれの感染経路でも感染します。感染力が非常に強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～18人の人が感染すると言われています（インフルエンザでは1～2人）。

麻しんに感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日間の熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度発症してしまうと治療薬はなく、対症療法のみとなります。

我が国は、平成27年3月27日に、世界保健機関（WHO）から麻しん排除状態にあると認定されました。麻しん風しん混合（MR）ワクチンの定期接種も実施されており、麻しんに感染する方の人数は減っていましたが、令和7年以降、海外からの輸入例を発端として、全国的に麻しん患者の報告が散発しています。

麻しんの予防には予防接種が効果的なため、定期予防接種対象者の方は、早めに接種して感染を防ぎましょう。また、現在、麻しんは東南アジアやアフリカなどで流行しています。流行地へ渡航を計画している方は、り患歴や予防接種歴を確認していただき、不明な場合には、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。

（1）麻しん・風しん（MR第1期・第2期）定期予防接種について

区 分	対 象 年 齢
第1期	1歳以上2歳未満（2歳の誕生日の前日まで）
第2期	小学校就学前年度（令和8年4月に小学校入学予定の方） ※令和7年度は平成31年4月2日から令和2年4月1日生まれの方

（参考）過去5年間の麻しん報告数

年 次	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年 (速報値)	令和7年 (速報値*)
本 市	0	0	0	2	1
愛知県 (本市含む)	2	0	2	2	3
全 国	6	6	28	45	58

※令和7年は第13週（3月24日～3月30日）時点

3 病原体分離情報（令和7年3月検査分）

1. 令和7年2月24日発症、その後市内医療機関を受診し、熱性けいれんと診断された、昭和区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液：2月25日採取）から、多くは軽症の呼吸器感染症でとなりますが、細気管支炎、肺炎など重症化することがある RSウイルス B 型 (RSV-B) を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体（咽頭ぬぐい液）から、呼吸器症状を呈することが知られている アデノウイルス 1 型 (ADV-1)、さらに サイトメガロウイルス (CMV) も遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和7年2月21日発症、その後市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症と診断された、市外（常滑市）在住、0歳7か月、女児の検体（咽頭拭い液：2月27日採取）から、乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるといわれている RSウイルス A 型 (RSV-A) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和7年2月20日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、千種区在住、7歳、男児の検体（便：2月25日採取）から、乳幼児を含む小児に下痢や嘔吐の症状がはげしい急性胃腸炎を引き起こすことが知られている ロタウイルス A 群血清型 G8 (RV-A G8) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和7年2月24日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、千種区在住、2歳、男児の検体（便：2月25日採取）から、乳幼児を含む小児に下痢や嘔吐の症状がはげしい急性胃腸炎を引き起こすことが知られている ロタウイルス A 群血清型 G8 (RV-A G8) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和7年2月25日発症、その後市内医療機関を受診し、肺炎と診断された、名東区在住、0歳0か月、男児の検体（便：2月28日採取）から、乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるといわれている RSウイルス A 型 (RSV-A) を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第10週～第13週（3月3日～3月30日）

	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌・肺炎球菌を 原因として特定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるもの に限る）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※ による入院患者	
千種	52	55	28	2	18	161	1	2	11	4	0	2	0	4								340
東	27	40	2	0	11	26	0	0	0	0	0	0										106
北	7	58	12	4	9	104	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	209
西	11	34	70	16	27	237	0	0	21	6	0	0	0	0								422
中村	17	108	21	0	5	79	2	0	2	0	0	0	0	3								237
中	14	47	20	0	24	65	1	0	2	2	0	0										175
昭和	14	103	1	0	3	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	4	1	24	241
瑞穂	4	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4								63
熱田	9	59	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0								75
中川	17	117	21	9	4	81	1	0	2	1	0	0			1	0	3	0	2	0	18	277
港	10	53	0	0	13	52	0	0	0	0	0	0										128
南	17	125	22	0	8	55	4	0	0	1	0	1	0	0								233
守山	25	66	11	0	18	98	0	0	7	3	0	1										229
緑	14	81	2	0	17	170	0	0	5	5	0	0	0	0								294
名東	23	40	9	27	25	155	3	0	12	5	0	0	0	0								299
天白	9	38	0	4	3	46	0	0	0	1	0	0	0	1								102
合計	270	1,079	219	62	185	1,421	13	2	64	30	0	4	0	12	1	0	9	0	6	1	52	3,430
前月	502	1,759	207	85	234	1,184	10	1	36	33	0	3	0	8	1	0	10	0	6	11	95	4,185
前月比	0.54	0.61	1.06	0.73	0.79	1.20	1.30	2.00	1.78	0.91	－	1.33	－	1.50	1.00	－	0.90	－	1.00	0.09	0.55	0.82
昨年同月	3,024	1,762	84	97	602	650	14	9	0	31	0	6	0	19	2	2	9	0	0	14	55	6,380

※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 3月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感器 感染症 クラミジア	ウ性 イルヘル ス感染症	尖圭 コンジ ローマ	淋菌 感染症	黄色メ 染色チ 症ブシ ドリン 球耐 菌性	肺炎ペ 球菌ニ 菌リン 感染耐 症性	緑膿薬 菌剤耐 感染性 症	
千種	0	3	0	1				4
東								
北	18	11	5	9	3	0	0	46
西	0	2	0	0				2
中村	1	5	1	1				8
中	51	43	28	21				143
昭和	10	4	1	1	6	0	0	22
瑞穂	1	0	0	0				1
熱田								
中川	3	2	9	4	2	0	0	20
港	4	0	0	0				4
南	0	0	0	0				0
守山								
緑	6	0	0	2				8
名東	1	0	0	0				1
天白	0	0	0	0				0
合計	95	70	44	39	11	0	0	259
前月	116	45	36	32	12	1	0	242
前月比	0.82	1.56	1.22	1.22	0.92	0.00	-	1.07
昨年同月	126	50	46	44	16	1	0	283

注:  は、報告する医療機関がないことを表す。

3月分患者報告数	
週報分	3,430
月報分	259
合 計	3,689

令和7年 3 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 3 月	令和7年計	令和6年計	令和5年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	4 (1)	9 (3)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	1	2 (1)
合 計		4 (1)	9 (3)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 3 月	令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	3	5	31 (6)	48 (6)
O26	-	-	5 (3)	4
O103	-	-	5 (1)	-
O111	-	1	2	-
O165	-	-	1	-
その他	-	-	2 (1)	1 (1)
型 不 明	1 (1)	3 (3)	6 (4)	9 (6)
合 計	4 (1)	9 (3)	52 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

3月

保健セン ター名	令和7年3月（※）			令和7年計（※）			令和6年計（※）			令和5年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	2	0	0	19	7	2	21	10	5
東	0	0	0	3	1	0	10	6	2	4	1	6
北	2	0	0	4	2	0	21	9	6	18	8	14
西	1	0	0	4	0	0	8	3	10	12	5	11
中村	2	0	0	4	0	3	22	3	7	21	4	10
中	2	1	0	2	1	1	16	7	6	21	9	12
昭和	0	0	1	3	0	1	19	5	2	13	2	6
瑞穂	0	0	0	1	1	0	8	2	2	8	2	3
熱田	1	0	0	1	0	1	10	2	3	3	1	4
中川	0	0	0	6	2	1	26	13	20	31	8	20
港	2	1	0	4	1	1	20	5	7	23	5	10
南	1	0	0	3	2	0	16	5	9	18	7	12
守山	1	0	0	4	0	0	26	11	5	21	12	11
緑	1	0	1	6	0	1	20	6	9	19	5	18
名東	0	0	0	0	0	0	10	4	4	10	4	7
天白	0	0	0	0	0	0	13	4	5	19	8	5
全市	13	2	2	47	10	9	264	92	99	262	91	154

※令和6・7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年3月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		1	4	5
A型肝炎	-		-	1	1
エムボックス	-		-	1	3
ジカウイルス感染症	-		-	3	-
チクングニア熱	1		1	1	-
つつが虫病	-		-	1	1
デング熱	-		-	4	6
日本紅斑熱	-		-	3	1
マラリア	-		-	1	1
レジオネラ症	3		8	48	32
レプトスピラ症	-		-	-	1
合 計	4		10	67	51

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和7年3月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		3	20	13
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	1	B型: 1	B型: 1	-	B型: 2
		-	-	-	-
		-	-	その他: 1	その他: 3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3		8	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	1	-
急性脳炎※	-		-	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	-	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		9	46	22
後天性免疫不全症候群	1	無症候性特異: 1	無症候性特異: 4	無症候性特異: 39	無症候性特異: 55
		-	AIDS: 1	AIDS: 17	AIDS: 20
		-	その他: 2	その他: 1	-
ジアルジア症	-		-	1	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		11	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		2	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症	12		38	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	-		5	9	8
梅毒	41	早期顕性梅毒: 32	早期顕性梅毒: 81	早期顕性梅毒: 815	早期顕性梅毒: 333
		-	-	晩期顕性梅毒: 9	晩期顕性梅毒: 4
		-	-	-	先天梅毒: 5
		無症候梅毒: 9	無症候梅毒: 41	無症候梅毒: 143	無症候梅毒: 126
播種性クリプトコックス症	-		-	1	1
破傷風	-		-	-	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	21		32	35	16
麻しん	-		1	2	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-		1	-	-
合 計	85		240	819	751

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 3 月 31 日時点）